

及び社会的資源を確立することが重要な要素である旨言及した。さらにテイラー教授の属するカールトン大学の Lauriault 氏による東ティモールでの SDI の取組みについて説明した。東ティモールでは、空間データ基盤の整備が国家的な開発の実現に役立っており、まず第一に既存の政府開発援助による取り組みを調整し、東ティモールの人民により広範囲での民族自決をもたらす人的及び組織的能力が必要となる旨述べた。

(3) クオ・ホワトン デジタルアース国際シンポジウム (ISDE) 事務局長

「デジタルアース：整備と取組み」

多次元、多縮尺、多時点及び多階層システムによる情報設備というデジタルアースの概念が紹介された。他の機関との協力が強調され、デジタルアースの試作版が紹介された。

3. 2. 2 セッション「全球、地域、各国の空間データ基盤—地域」

(1) サンチャゴ・ボレロ 汎アメリカ地理歴史研究所 (PAIGH) 地図委員会会長

「汎アメリカの空間データ基盤、現在及び将来計画と取組み」

PAIGH の役割及びアメリカ空間データ基盤常置委員会 (PCIDEA) の趣旨について説明があり、これらの機関がますます重要になってきていることが強調された。この地域の NSDI の著しい発展の一方で、能力開発の必要性や財源上の困難についても言及し、PAIGH と PCIDEA が地域 SDI 計画の実施に向けて取り組む必要があると述べた。

(2) アッバス・ラジャビファード博士 メルボルン大学

「SDI の整備：問題点と影響要因を明らかにする」

SDI 整備に影響を及ぼす主な要因について論じた。続いて SDI のヒエラルキーや複数の SDI 間の関係について分析した。実りある SDI の整備のためには、単なる技術的取り組みというよりも、むしろ社会経済的・社会工学的な観点が必要であると論じた。

3. 2. 3 セッション「全球、地域、各国の空間データ基盤—各国」

(1) ワン・チュンフェン 中国国家測絵局 (SBSM) 副局長

「中国における国家空間データ基盤 (NSDI)」

実りある SDI の整備のための重要な要素として、諸機関の調整、財源の投入、標準化、応用分野の拡張について言及した。

(2) ジョン・バスビー博士 オーストラリア政府空間データマネジメント室

「オーストラリアにおける NSDI」

SDI の整備と実施にあたり、データ共有化に関する障壁を少なくすることはもちろん、計画・実施の管理、各主体の連携、能力の開発についても取り組まなければならないと述べた。

(3) グリシュ・クマール インド測量局副局長

「NSDI：インドのイニシアティブ」

ビジョン、目標、コンテンツ、設計など SDI に関わる広範囲な研究が紹介された。

(4) キム・ゲヒュン インハ大学教授

「大韓民国における NSDI の整備と課題」

SDI 整備基本計画 1995—2000 及び 2000—2005 が紹介され、今後想定されている業務の説明があった。

(5) 碓井照子教授 奈良大学・地理情報システム学会長

「日本における NSDI—整備と課題」

日本では兵庫県南部地震を契機に NSDI の整備及び GIS が認知され普及が進んだことを強調した。また電子政府政策 (e-Japan 戦略) における GIS の意義と、GIS アクシオンプログラム 2002—2005 が紹介された。

3. 2. 4 セッション「国際機関の取り組み」

(1) ステイグ・エネマーク教授 国際測量者連盟 (FIG) 代表

「基盤となる持続可能な土地管理システム」

地籍システムを土地行政及び土地管理の中核システムと位置付け、持続可能な開発を支える土地情報システムの重要性を強調した。また、安全に土地を所有する権利が全ての人々に保証されることを求める国連/FIG バサースト宣言 (1999 年) について言及した。最後に、土地行政の役割と、空間データ基盤への需要が増大していることをそれぞれの国際組織が認識すべきことを指摘した。

(2) ジョン・トリンダー 国際写真測量リモートセンシング学会 (ISPRS) 会長

「高解像度衛星画像を用いた情報抽出の実践」

最近の IKONOS, EROS-A または Quickbird など高解像度衛星画像の現状のほか、それらの幾何学的評価や主題図情報抽出への利用について概説した。データの入手方法や標準的なデータ料金にも言及した。次いでコネクニ教授からも関連して補足的な発表がなされた。